

愛媛県側9つの自治体と大分県側9つの自治体で新たな経済圏の循環などを目的に相互交流を図っており、その一環として、お互いの広報誌の相互掲載を行っています。

今回は「津久見市」です。海の向こうに目を向けてみましょう。



## 大分県臼杵市



◀ 臼杵市公式マスコットキャラクター  
「ほっとさん」



臼杵市は大分県東南部に位置し、豊後水道に面した東部から南西部に楕円状に伸びた地形で、人口約35,000人の自然に囲まれたまちです。平成17年1月の市町村合併により、造船業や醸造業が盛んな旧臼杵市と農業を基幹産業とする旧野津町が一緒になり、産業バランスの取れたまちになりました。

また、「田舎暮らしの本」2021年2月号（宝島社）にて掲載された、『2021年版住みたい田舎ベストランキング』では、総合部門第3位（人口10万人未満の小さなまち部門）を獲得するなど、高い評価をいただいています。

### 文化財や行事の紹介

瀬戸内海と太平洋が結節する位置にある臼杵市は、古くから海上交通の要衝として栄えました。約900年前に造られた国宝・特別史跡臼杵磨崖仏（臼杵石仏）や、国史跡下藤キリシタン墓地・市指定有形文化財寺小路磨崖クルスなど、全国を代表する仏教文化財とキリスト教文化財が存在していることからわかるように、臼杵はさまざまな外来文化を受け入れ、育んできた土地でもあります。キリシタンであった大友宗麟のころに形成が始まり、江戸時代は東九州随一の商業地として栄えた臼杵城下町の名残をとどめる『二王座歴史の道』辺りにその風情が漂っています。

また、臼杵城跡を満開の桜が彩る『臼杵城址桜まつり』、旧城下町では勇壮に山車が駆け巡る江戸時代の形態をいまに残す「臼杵祇園まつり」、3万本の「竹ぼんぼり」が町並み幻想的で優しく照らし出す『うすき竹宵』の三つの行事は、この町の優雅な歴史を今に見せます。このほか、とんちの名人として名高い「吉四六さん」の名を冠した『吉四六まつり』、江戸時代の虫送り行事に始まる『うすき石仏火祭り』など、臼杵の歴史に根差した行事が四季折々に催されます。



▲ 国宝・特別史跡臼杵磨崖仏（臼杵石仏）



▲ 寺小路磨崖クルス



◀ 臼杵祇園まつり



うすき竹宵▶



### 食の紹介



きらすめし

黄飯・かやく

フグ料理

およそ2,500haもの農耕地でサツマイモやタマネギ、ピーマンなど多くの農産物が作られており、近年は「土づくりセンター」で作られた完熟堆肥の「うすき夢堆肥」を使った有機農業にも力を入れています。また、おからと新鮮な魚の切り身で作られた「きらすめし」やクチナシの実で炊いた「黄飯」、魚肉や豆腐、野菜などを煮込んだ「かやく」などの伝統的な郷土料理があります。このほかにも臼杵を代表する特産品「かぼす」や臼杵のフグも全国的に広く知られています。

ぜひ、歴史と文化の薫る臼杵市にお越しいただきたいと思ひます。

臼杵市  
ホームページ▶



Facebook▶



LINE▶

